

会議録(議事要旨)

会議名称	令和８年度第１回浅口市総合計画審議会
開催日時	令和８年８月３日(月) １３時３０分～１５時２０分
開催場所	浅口市役所本庁舎３階第１会議室
出席者(敬称略)	中村 良平、伊澤 誠、高戸 崇、川上 正記、黒川 政治、渡邊 清志、井上 善裕、福嶋 啓介、金光 道晴、山下 隆志、原 一、筒井 由紀子、加賀 直美、箕輪 光幸、斎藤 章一朗
欠席者(敬称略)	中村 昭、赤澤 眞弓、安田 麻子
会議次第	１ 開 会 ２ 委嘱状交付 ３ 市長あいさつ ４ 会長及び副会長の互選 ５ 諮問 ６ 審議事項 (１)策定方針及びスケジュールについて (２)市民アンケート調査結果について (３)基本構想(素案)について ７ その他 ８ 閉 会
その他	報道関係者：笠岡放送株式会社 傍聴者：なし

審議事項	
(1)策定方針及びスケジュールについて	
事務局	<u>※資料1～4をもとに説明</u>
会長	事務局からの策定方針説明に対し、質問や意見があるか。事務局スケジュール案のとおりでよろしいか。
各委員	(意見なし)
(2)市民アンケート調査結果について	
事務局	<u>※資料5をもとに説明</u>
委員	市民アンケートの回答者数 157 名が、浅口市の人口 3 万以上に対して少ないのではないか。
事務局	回答者数が少ないことは事務局としても認識しており、ウェブ回答のみに限定したことが一因であると考えている。しかし、157 名の回答も貴重な市民意見であり、男女比や世代構成はバランスが取れている。また、5 年前の紙媒体による調査(約 500 名回答)と比較しても、上位・下位施策の傾向に大きな変動はなく、一定の信頼性は確保されている。今後のパブリックコメントでは、より多くの市民意見を募るため、情報発信を強化する。
委員	アンケートの年代別データについて、クロス集計により高齢者層と若年層それぞれの傾向が読み取れるか。 また、中学生が地元に着愛を持ちながらも転出意向を示している点について、改善策が重要であり、10 年後の人口構成予測を踏まえた若年層の定住促進策の検討を求める。
事務局	資料の後半に年代別の集計表を掲載しており、40 歳から 59 歳までの回答者が約 60%を占めている。 中学生が転出を希望する理由としては、「お店や飲食店が少ない」「都市部から遠い」「娯楽施設がない」など、「都会的でない」ことを理由とする回答が上位に挙げられている。若年層には都会への憧れがあるとしつつも、働く場の確保など、将来的に市に戻ってきてもらえるような取組が必要であると認識している。
委員	60 歳以上の回答者が 20 人にとどまることから、年代別のクロス集計結果に偏りが生じる可能性があるのではないかと。また、ウェブアンケートの当初の目標回答数と実際の達成率についてはどうか。
会長	ウェブアンケートの場合、告知を何人が閲覧したか把握するのは困難かもしれない。
事務局	令和 2 年度の調査では、紙媒体で 1,000 人に調査票を配布し、552 人(55.2%)から回答を得た。一方、今回はウェブ上で誰でも回答できる形式とし、目標回答数を

	500 人と設定したものの、実際の回答者数は 157 人にとどまった。
委員	寄島地域の回答者が 10 名 (6.37%) と非常に少ない。顧客との会話から、寄島地域は高齢化や公共交通の問題を特に抱えていると感じており、次回以降は地域ごとのサンプル数を確保すべきである。
委員	第 2 期総合計画策定時から考えられる今回の審議会運営におけるアドバイスや反省点があれば伺いたい。 また、少子高齢化が産業、行政、教育を含むあらゆる課題の根源であり、岡山県全体の 15 歳人口が平成元年と比べて半減し、15 年後にはさらに現在の 3 分の 2 程度まで減少すると予測されている。浅口市においても同様の人口減少が予想されていると思うが、総合計画の策定方針全体に少子高齢化への対応という視点を取り入れる必要があるのではないか。
事務局	総合計画が市政全般の羅針盤となることから、「市民目線」で浅口市の 10 年後のあるべき姿について忌憚のない意見を出してほしい。 人口減少問題については、基本構想の主要課題の 1 番目に位置付けており、人口ビジョンに基づいて減少幅を抑え、持続可能なまちを目指す。 アンケートの回答者数が少なかったことについて、今後は実施方法の改善を図る
(3) 基本構想(素案)について	
事務局	<u>*資料 6 もとに説明</u>
会長	基本構想の考え方について、将来像に関するキーワードやフレーズを中心に、一人ずつ意見を頂戴したい。
委員	中学生の休日の過ごし方において部活動の占める割合が大きい。令和 8 年度以降の部活動の地域移行が課題となっている。市が強力なリーダーシップを発揮し、国の方針を踏まえつつも独自性を持った取組を進め、子どもたちの未来を明るく楽しいものにするための施策を期待する。
委員	市民アンケートにおいて「商業の振興」の満足度が低く、不満が 43.6% を占めていることや、「農林漁業の振興」についても不満が多い。地域経済の活性化に向け、地元企業(商業、漁業、農業)の振興、観光資源の磨き上げ、情報発信が必要であり、地域密着型の事業承継や新たな店舗の増加が理想である。
委員	寄島地域の人口減少や子どもの減少、交通の便の悪さが課題である。アンケート結果から、都会的な楽しさを重視する傾向が見られるが、少子高齢化は避けられない流れであり、「年寄りが楽しく暮らせるまち」を目指すべきである。
委員	田畑の減少、耕作放棄地の増加、農業従事者の高齢化が課題である。金光地区では分譲住宅が増加し、若い世帯の流入が見られることから、田んぼの維持と開発を両立させ、地域の発展につなげるべきである。

委員	子育て施策は浸透している一方、高齢者施策にも注力すべきである。65 歳以上の単身高齢者・高齢夫婦世帯が 3 割を占める現状を踏まえ、一人になっても住みやすく、周囲とのコミュニケーションが取れるコンパクトシティが解決策の一つであるとする。金融機関としては、相続発生時の資産流出、空き家の増加、相続対策不足による「睡眠預金」の増加が懸念されるため、金融機関や社会福祉協議会との連携により、これらの課題をカバーすべきであると考えている。
委員	医師の高齢化が進んでおり、10 年後の医療機関の状況に不安がある。「子どもたちも高齢者も皆が楽しく、健康なまちづくり」に尽きる。独居高齢者や介護を必要とする人が増加する中、終末期まで楽しく過ごせるまちを目指すべきである。
委員	10 年後の将来像として、「元気」「楽しい」「笑顔」「活気」といったポジティブなキーワードが不可欠である。また、人と人との「思いやり」や「つながり」も重要であり、現状は楽観視できないものの、市民が元気になれるようなキャッチコピーを期待する。
委員	「天文学の街」、「学園都市」（金光学園、山陽高校、鴨方高校など）、鴨方における「麺の街」、「植木の街」、「子育ての街」、教育文化の街、寄島の「育てる漁業」、「海の駅」といった観光資源、さらに「介護の街」等、浅口市の特性を踏まえ、職員で検討してほしい。
委員	市民アンケートの回答者数が 157 名（人口約 32,000 人）にとどまっていることについて、市民の声が十分に反映されていると言えるのか。次回審議会までに、町内会長を通じてアンケートの回収率向上を図るよう依頼したい。 10 年後の人口が 27,500 人と予測されていることを踏まえ、将来を見据えたインフラ整備が重要である。 個人的な見解として、日本は豊かになりすぎ、物があふれている時代であることから、儉約の精神も必要であるとする。
委員	資料 3 ページのピラミッド型体系図について違和感を感じる。基本構想を土台とし、その上に基本計画（前期・後期などの時系列）、実施計画と続く体系であれば理解できるが、単なる平面的な表現ではなく、時系列的な要素も考慮した表現がよいのではないかと。 住民にとっては「安心して住みやすい」ことが最も重要であり、若い世代も高齢者も楽しく暮らせるまちを目指すべきである。子育て環境については産科不足、高齢者のコミュニティ形成については、活動的な人とそうでない人との分断が必要である。人とのつながりが見えやすくなるような施策を希望する。
委員	放課後児童クラブにおいて、金光地区で待機児童や支援員不足が深刻な状況にある。施設整備などのハード面だけでなく、支援員の就業環境の整備も重要である。金光地区の小学 6 年生が行う未来に関する発表を例に挙げ、浅口市全体として「子どもたちの夢が輝ける」まちづくりを期待する。

委員	企業誘致も重要であるが、既存企業のバージョンアップや魅力ある職場づくりも必要であり、地元に残りたい、地元で就職したいと思う人を増やす視点が重要である。また、女性活躍の推進も重要であり、女性の意見や視点も大切である。 「現状維持は後退」であると考え、「進化する街」「進化し続ける街」を提案したい。ソフト・ハードの両面で進化し続けるまちを目指すべき。
委員	井笠地域の中でも浅口市は高いポテンシャルを持っており、未来に向けて前向きに取り組めるまちである。「誰もが笑顔で、しかも未来へ活躍できる」といった未来志向のメッセージがよいのではないか。また、中学生が地元を好きだと感じていることは、浅口市にとって素晴らしい資産である。
副会長	浅口市は高いポテンシャルを持つまちであり、来年度開通するバイパス笠岡玉島道路を活かし、他市町村に誇れる「打って出ていく浅口市」を築いていきたい。 また、災害時における水道や道路などのインフラ整備を重要施策とし、浅口市の老朽化したインフラの再整備が今後 10 年間の課題である。
会長	高梁川の水資源など、浅口市にも多くの可能性がある。まちづくりを考える 3 つの要素として「住みやすい街」「働ける街」「訪れる街」が挙げられる。各委員からの意見を参考に、事務局でキャッチフレーズを検討してほしい。
事務局	将来像だけでなく、現状に対する評価や望まれる姿など、委員から出された貴重な意見を基本計画の策定時にしっかりと反映していく。 アンケートの回答者数について、再調査は困難であるが、他のアンケート結果なども参考にしながら、今後の個別計画の策定に活かしていく。